

美瑛富士・携帯トイレシステム試行4年目の活動報告

美瑛富士トイレ管理連絡会
事務局 山のトイレを考える会

1. 4年目の取り組み

2018年も北海道の山岳団体等で構成する「美瑛富士トイレ管理連絡会」（以下 美瑛トイレ連絡会と略称）により、6月24日～9月29日までの3ヵ月間、仮設携帯トイレブース（テント型）の点検パトロール・維持管理を実施することができました。点検パトロール予定日は荒天で中止の団体もありましたが、環境省の協力もあり全部で9回実施できました。

過去2年続けて台風等で仮設携帯トイレブースが倒壊したのですが、残念なことに今年も9月5日の台風によって倒壊、9月14日に環境省によって再設置しました。

また昨年に引き続き避難小屋に無料携帯トイレを配備し、携帯トイレを所持していない登山者に使ってもらおう試みも実施しました。

点検パトロール・維持管理を実施して頂いた道内山岳団体等、イニシアチブをとって頂いた環境省東川自然保護官事務所、そして回収ボックスの維持管理、使用済み携帯トイレの処分を引き受けて頂いた美瑛町と上富良野町の関係者の皆さまにお礼申し上げます。

2. 2018年度取り組みの役割分担

役割分担は2015年～2017年とほぼ同様に実施しました。

（第19回山のトイレフォーラム資料集を参照）

3. 2018年点検パトロール等の実施日と担当団体

- ・6月24日（日）…仮設携帯トイレブースの設置：9名
（環境省・美瑛山岳会・山のトイレを考える会等）
- ・7月 9日（月）…荒天のため中止：日本山岳会北海道支部
- ・7月14日（土）…大雪山国立公園パークボランティア連絡会：7名
- ・7月22日（日）…札幌山岳連盟：3名
- ・7月29日（日）…北海道山岳連盟：3名
- ・8月 4日（土）…道北地区勤労者山岳連盟：4名
- ・8月19日（日）…荒天のため中止：山のトイレを考える会
- ・8月20日（月）…日本山岳会北海道支部：3名
- ・9月 2日（日）…道央地区勤労者山岳連盟：11名
- ・9月14日（金）…9月5日の台風により倒壊したブースの再設置と点検パトロール
環境省東川自然保護官事務所：5名
- ・9月19日（水）…北海道山岳ガイド協会：2名
- ・9月29日（土）…仮設携帯トイレブース撤収：2名（環境省） のべ49名



携帯トイレブースの設置を終えて



9月5日の台風でブース倒壊

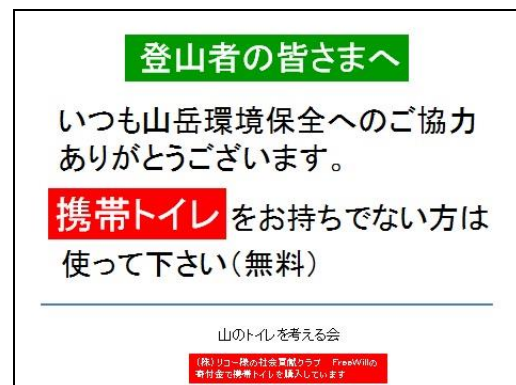
4. 避難小屋での無料携帯トイレの配備

(株)リコー様の社会貢献事業 FreeWill の助成金を得たことから2017年に引き続き、携帯トイレを150個購入し、避難小屋に配備しました。携帯トイレを所持していない登山者に使ってもらうことと啓発を兼ねた施策です。

お金の徴収管理が困難なため無料としました。ブース設置時に30個配備、その後は点検パトロール時に減少分を補充しました。最終的に持ち出されたのは113個で、残りは各山岳団体で有効利用することにしました。



無料携帯トイレの小屋内配備



無料携帯トイレについての掲示

5. 点検パトロール実施報告から

美瑛トイレ連絡会の参加団体等から次のような報告がありました

- (1) 携帯トイレブース内でアンモニア臭がした(道北労山連盟、道央労山連盟)
- (2) 小屋内は清掃しているようで綺麗だったとの報告が多かった
- (3) 3年続けて台風等でブースが倒壊。設置場所の検討が必要(環境省、道ガイド協会)
- (4) 回収ボックスの鍵が不良で約1ヵ月以上も施錠なし。その間、ペットボトルやゴミが投入された
- (5) 期間中のティッシュの回収累積数は21個、汚物は7個と過去最小だった
- (6) 林道から登山道に変わる地点でスズメバチに襲われた(道央労山連盟)
- (7) 回収ボックスのカウンターは過去3年間同様、今年も誤動作し、計測不能だった。

- (8) 携帯トイレブースの利用数カウンターは今年も誤動作（誤操作？）し、正確に計測できなかったが何とか198回と推定した。

(表) 携帯トイレブースのカウンター値

月/日	7/14	7/22	7/29	8/4	8/20	9/2	9/14	9/19	9/29
ブース	53	*1184	1198	1213	1251	1262	**3385	3392	3396

*誤動作 1100+ **誤動作 3200+ ⇒推定すると最終値：196



ティッシュの回収



ブースの張り綱の調整

6. 携帯トイレ所持率向上に向けた新たな施策

- (1) 旭川中部森林管理署に登山者からの涸沢林道のゲート番号問い合わせ時に携帯トイレを使用してもらう呼びかけを実施していただきました。
- (2) ヤマレコでは個々の山の概要について登録会員ならば誰でも記述編集が可能です。考える会ではオプタテシケ山、美瑛富士避難小屋、美瑛富士、美瑛岳の概要欄に美瑛富士避難小屋ではトイレが無いので携帯トイレ使用するように記述しました。

7. 回収ボックスの場所と鍵番号の周知

白金温泉公衆トイレは観光客も使用することからゴミ投棄防止のために施錠しています。この鍵番号「530」を登山者にいかに周知するかが課題です。次のような施策を実施しました。

- (1) 回収ボックスに白金観光センターで教えてくれることを掲示
- (2) 避難小屋内や携帯トイレブース内、涸沢林道ゲートの内側、登山口の入林届に掲示
- (3) 新しいトイレマップに回収ボックス毎に記載

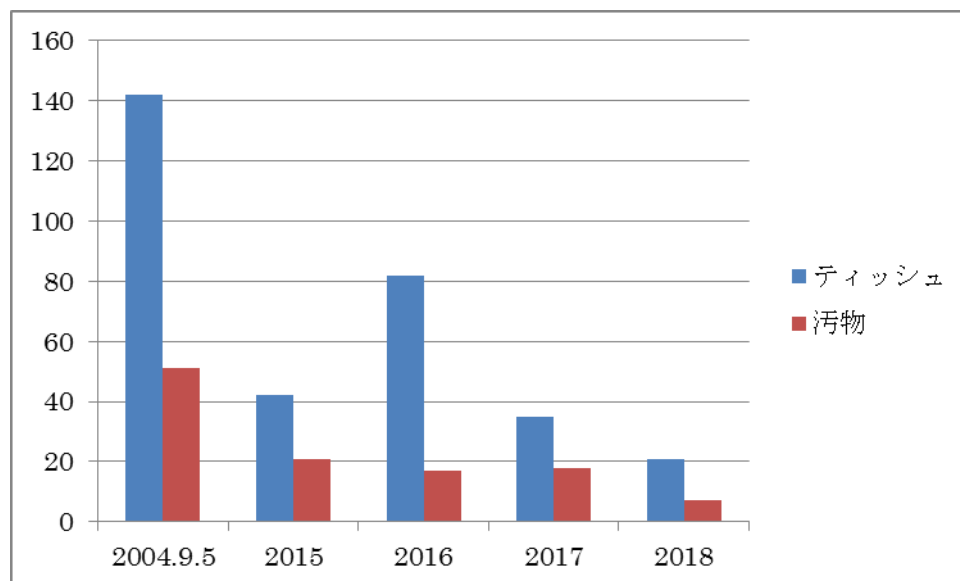
8. ティッシュ、汚物は減ったか？

2015年から試行実施して4年目が終わりました。果たしてティッシュや汚物の散乱は以前と比較して減ったのでしょうか。2004年9月5日に山のトイレを考える会で清掃登山を実施しました。この時はティッシュ142個、汚物51個を回収しました。

この4年間の回収数は2004年と比較するとかなり減っており、携帯トイレブースや回収ボックスの設置、さらに広報等いろいろな施策が結果として表れたと思います。

登山者が安心して携帯トイレを使用できる環境整備、さらに美瑛富士避難小屋を利用する場合は携帯トイレを必ず所持する広報など地道な啓発活動を今後も続けていきます。

(図) 美瑛富士のティッシュと汚物回収数の年度推移



9. 次年度(2019年度)の取り組みについて

2018年も環境省、美瑛町、美瑛トイレ連絡会、美瑛山岳会などの多くの皆さまとの協働で美瑛富士における携帯トイレシステムの試行実施をすることができました。

2019年度も引き続き、登山者により使いやすい携帯トイレシステムを目指し、点検パトロールを実施していきます。

【2019年の取り組み(案)】

- (1) 白金温泉での携帯トイレ販売個所が分かる広報の実施
- (2) 携帯トイレの回収数の把握方法を検討。カウンター方式から筆記による記録方式に変更する等の方法について検討する
- (3) どのような広報をすると効果的なのか、多方面から検討する

10. 環境省へ望むこと

私たちの念願であった「大雪山国立公園携帯トイレ普及宣言」が7月10日に発表されました。大雪山国立公園全体を対象としたものですが、その中でも大きな問題となっているのが、トムラウシ南沼野営地と美瑛富士避難小屋です。この2カ所のトイレ問題を解決することが、登山者の意識を変え、大雪山国立公園全体に波及し、全国に誇れる国立公園になると確信しています。

当分は現在のテント型携帯トイレブースを設置して、トイレ問題の解決を目指しますが、台風で倒壊しない固定式携帯トイレの設置を一日でも早く設置されることを願っています。

以 上

(文責：仲俣善雄)